台北市新活力自立生活協會

事務局長 林君潔 (リン・チュン・チェ)

今天是一個特別的日子，因為有日本、台灣很多很難得同時出席在同一個場合的人們兒，聚集在喜樂影城看電影，有公部門官員也有民間社會運動戰友、學術界夥伴及關心此議題的民眾。平日大家聚在一起都是為著嚴肅的議題討論著，但今天我們難得輕鬆地在一起看電影。

今日は特別な一日です。日本、台湾、普段なかなか集まらない人たちが映画を見にセンチュリーアジアシネマズに集まりました。政府部門の長官もいれば、社会運動でともに戦ってきた戦友たち、学術界の仲間たち、障害者のことに関心を持つ人たちも来てくれました。いつもの集まりなら堅い話についての議論をしたりしますが、今日は珍しく和気あいあいとした雰囲気で映画を見ました。

這一次我們辦這個活動，不是在身心障礙會館或公民會館，是在一個交通便捷地熱鬧影城，大家一起看電影，且有將近20台的輪椅使用者一同進入參與，影城每一層樓都有無障礙廁所，放映廳裡我們也有申請台日口譯、聽打和手語翻譯服務，希望能讓多元需求的觀眾能夠平等參與座談。唯一的遺憾就是原本要安排口述影像服務，但由於國內口述影像人才欠缺，且需要在電影播放前，讓口述影像員有充裕的時間，至電影公司看片寫稿，加上口述影像服務不像手語翻譯服務一樣是有政府補助，口述影像員費用及播報、收發器的租借費用...等預算就要3萬元以上，已經超過我們協會可以負擔的範圍內，所以最後沒有辦法提供完善的服務，但也因為有了這一次深刻的經驗，讓我們更感到無障礙的推動及服務公共化，都是在未來推動自立生活的路上，不可忽視的重要課題。

今回のイベントの開催会場は障害者会館や公民館ではなく、交通の便利でにぎやかなシネマズでした。20人近くの車いす利用者も一緒に参加しました。シネマズの各フロアにバリアフリートイレが整備され、開催中、日中通訳者だけではなく、誰もが平等参加できるように、要約筆記も手話通訳サービスも用意させていただきました。本当は音声解説サービスも提供したいですが、残念なことに、台湾国内に音声解説のできる人材が欠けており、また、音声解説サービスは手話通訳サービスのように政府から補助金が出ないため、原稿を書いてもらうために事前に映画を見てもらう費用、音声解説費用、レシーバーのレンタル料金など、合わせて3万元(10万円ほど)を超える費用は協会だけでは手に負えない部分があります。最終的には、きちんとサービスをご提供できませんでした。でも、この深刻な経験のおかげで、バリアフリーの推進もサービスの公共化も今後自立生活運動を推進する時に考えなくてはならない重要課題だと痛感しました。

「三更半夜居然要吃香蕉」這部電影翻轉了一般對障礙者「只是需要被協助」的刻版印象，鹿野與他的協助者們，是生命影響著生命，彼此互相協助、影響著，最後都在自己的人生中，走出屬於自己的一條道路。20年前的日本障礙者需要自己募集500位志工，不穩定地運作每一天的生活，到20年後的現在，國家提供24小時個人助理的制度，這一路走來，由不可能變可能，回顧這整個歷程推動來看，只要有開始、有行動，越來越多人，就可以將不可能化為可能。而現今在台灣，從政府甚至一般社會上的多數人會認為，障礙者是會拖跨國家財政的一群人，但，真的是這樣嗎?我們障礙者的存在，其實也製造了許多就業機會、經濟發展及文化價值。除此之外，我們應該要從更宏觀及人權的角度，去看多元族群存在的必要性。

『こんな夜更けにバナナかよ』という映画は障害者とは「助けられる存在だ」という一般人の先入観を覆してくれました。鹿野さんとその介助者たちはお互いの生命に影響を与えていました。お互い協力し合い、影響し合っていました。最終的には、自分の人生において自分なりの道を切り開くことができました。20年前の日本の障害者は自力で500名のボランティアを募集し、不安定な状況でも毎日を生きようとしました。20年後の今、日本政府が24時間の介助者サービスを提供するようになりました。不可能を可能にしました。振り返ってみると、とにかく始めること、行動することだと思います。そしてより多くの人がかかわってくると、いつかは不可能を可能にすることができます。今の台湾では、政府も社会の多くの人たちもまだ障害者は国の財政を悪くする人たちだと考えているようです。しかし、本当にそうなのでしょうか。我々障害者も新しい職業、経済発展、文化価値を多く創出してきました。やはり、もっと視野を広げて人権の観点より多元的共生社会の必要性を考えるべきだと思います。

電影座談中，從長瀨教授的分享到日本、台灣障礙者的分享內容都十分超精采！（可以參考其他連結文字記錄）其實平常我們這麼努力的推動不為什麼，只是希望能夠好好過生活! 能夠和所有人共同享有一樣的權利。這看似簡單、小小的希望，在實際生活中卻比登天還難，但是如果社會上每個人在自己的位子上，都能夠盡上一份力量，這個比登天還難的距離，就會慢慢縮短。希望未來我們一起繼續努力加油。

鑑賞後、座談会を行いました。長瀬教授の発表も日本と台湾の障害者たちのお話もみんな素晴らしいものでした。他の関連原稿もリンクをクリックしてご覧ください。我々の日々日ごろの努力は何のためでもなく、ただ単によく生きていたいだけです。皆と同じように権利があることです。この簡単なようでちっぽけな願いは実際、天に昇るより難しいです。しかし、誰もが自分の立ち位置で頑張れば、この天よりも遠い距離も少しずつ縮まると思います。これからも皆で頑張りましょう。